

北京・中医研究所蔵の『西陲古

方技書残卷汇编』について

森村謙 一

これは現在高齡の考証学者・羅福頤氏が一九四八年に瀋陽におもむいたとき、東北博物館で武内陸氏から黒田源次氏纂集による『パリ図書館所蔵・敦煌石室医方類纂稿』を得た。この稿の内容は、黒田氏がヨーロッパ留学の際に成したものであるが、唐代の医方書残卷二十一種を収めたものである。

羅福頤氏はほどなく北京に帰り、北京図書館所蔵の敦煌出土医方書残卷類で国外に在るものすべての照片と右の稿本とを比較検討したが、その機会に黒田氏纂集の及ばぬ所も含めて、これら敦煌出土唐代医方書残卷類を照片から起して、出来るだけ原本に近い姿で模写し直して成ったのがこの『西陲古方技書残卷汇编』である。序文に相当する羅福頤氏の記の終りに、一九五二年とある。この模写に際し

て、段ごとに前人の改訂を書き入れ、前人の改訂が未だ及んでいないところは羅氏が改訂を加えたという。また、国外在の敦煌出土医方書残卷のうちで量的に大部を占めるペリオ・スタイン両氏将来のものに付されている号目も記録して、読者の便を図つてある。演者は昨年訪中の折、この『汇编』を閲覧したので、とりあえず概要を報告する。

(大阪府立茨木高等学校)